

利根中央病院

第22号
2009年10月

病院

だより



企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>

理念と方針

理念 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり



今号の特集

✂ 栄養と胃ろうの地域連携に向けて

内視鏡手術外来の開設（胃ろう造設について）と
NSTによる胃ろう造設管理のご案内

————— 利根中央病院 外科 郡 隆之

✂ これからの予定

▼ 利根沼田地区 病病連携講演会

11月12日（木）利根中央病院研修棟 1階講堂

▼ 第103回・第104回 利根中央病院緩和医療研究会

第103回 11月19日（木）研修棟 1階講堂

第104回 12月17日（木）研修棟 1階講堂

▼ 沼田利根医師会 症例検討会

12月14日（月）利根中央病院研修棟 1階講堂

▼ 第9回利根沼田地区糖尿病地域連携研究会

2010年1月29日（金）ホテル ベラヴィータ



栄養と胃ろうの地域連携に向けて



利根中央病院 外科 郡隆之

日頃は大変お世話になっております。介護保険制度の導入により、医療・介護・福祉の多職種・多機関の関係者による地域患者の長期包括的ケアが重要となってきました。なかでも栄養管理は全ての疾患に共通する基本項目であります。高齢化が進む中、適切な栄養管理は、免疫力・基礎体力を向上させ、患者のQOLを維持し医療費削減にもつながります。

本邦では脳卒中の発症などに伴う摂食嚥下障害患者が増加傾向で、誤嚥性肺炎を繰り返し入院することが問題となっております。嚥下機能が低下して誤嚥性肺炎発症の危険性の高い患者に対しては、胃ろうがしばしば造設されます。胃ろうによる栄養管理患者は70～90万人と推測され、高齢社会の到来で、今後も増え続けると予測されています。

しかし在宅介護の困難さ、受入施設と管理可能な人材の不足から生じる「胃ろう難民」といわれる胃ろう患者の孤立が、地域医療の社会問題として顕在化してきております。そのため、胃ろう管理を含めた栄養管理を地域全体で包括的に行える体制を構築し、地域住民に提供することが必要です。

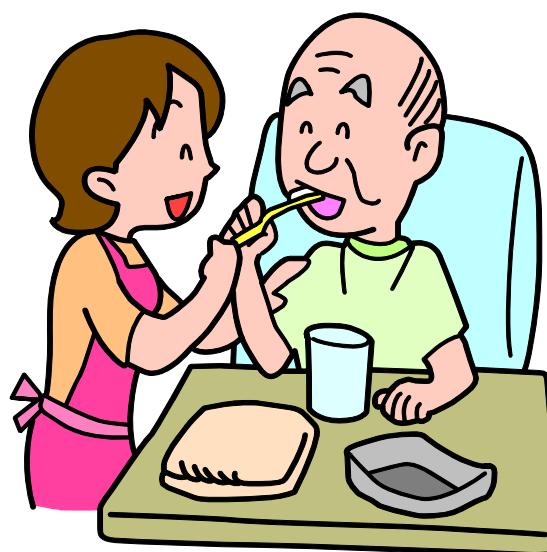
今回利根沼田二次医療圏レベルで進めている、栄養と胃ろう管理の地域連携の現状をご報告いたします。

群馬県では、2008年より群馬NST（Nutrition Support Team：栄養療法チーム）研究会が中心となり、二次保健医療圏単位で胃ろう地域連携の世話人を選任し、人的交流・技術知識の標準化・地域連携パスの運用を目標に掲げて、地域連携の推進を進めてきました。地域連携の基盤形成には、施設間の交流が必須であります。本地域でも過去1年間に渡り、いきいきクリニックの田中志子先生と共に「利根沼田栄養と胃瘻勉強会」を開催し（事務局：いきいきクリニック <http://taiseikai-group.com/index.php>）、胃瘻管理の実技セミナー、摂食嚥下や栄養に関する学習会を定期的で開催し、顔と人柄の見える多職種の人的交流と技術知識の標準化を行ってきました。今年度10月より、技術知識の標準化の範囲を広げ「利根沼田医療福祉勉強会」に名称を変更しました。既に前橋医療圏では92施設が胃ろうネット

ワークへ参加し、地域連携パスを稼働しています。利根沼田医療圏でも、2009年9月に「胃ろう地域連携会議」を立ち上げ、地域連携パスの運用の検討をはじめました。

本年度は、小生が関わっている厚生労働省科研「遠隔医療研究班」、厚生労働省の平成21年度老人保健健康増進等事業国庫補助金の助成による「胃ろう管理の実技セミナー開催による胃瘻管理者育成・指導者養成プログラムの構築」、「ITを活用した地域連携パスによる新たな地域連携モデルの構築事業」をタイアップさせてモデル事業作成および調査研究を行う事となりました。「胃ろう管理の実技セミナー開催による胃瘻管理者育成・指導者養成プログラムの構築」は、当院NST戸丸看護師が開発した実技セミナーをベースに作られており、胃ろうケア、栄養投与法、栄養評価、薬の懸濁、口腔ケア、褥瘡ケアなど医療介護現場で必須の知識と技術の習得を目的に人材育成カリキュラムモデルを作成しております。また、研修カリキュラム、研修教材、開催手順などの研修システムを構築して標準化を図り、開催プログラムを作成するとともに、研修教材となるテキスト及びDVD等の編集・制作を行い、研修による教育効果の実績評価を行う予定です。沼田では10月24日に実技セミナーを開催し、県内全域から60名を超える参加者がありました。

この地域に関わる医療福祉従事者が手をつないで、地域患者の長期包括的ケアを推進できる体制を進めてまいりたいと思いますので、ご協力宜しくお願い申し上げます。



内視鏡手術外来の開設(胃ろう造設について) と NSTによる胃ろう造設管理のご案内

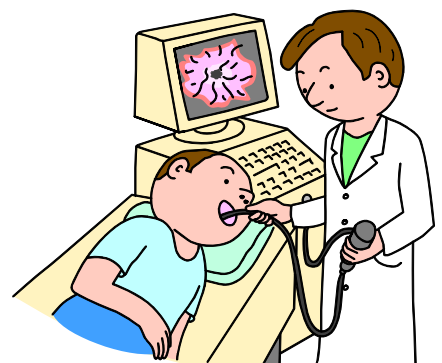
毎週月曜日午前の外科外来に内視鏡手術外来を新設しました。肺癌・胃癌・大腸癌などの悪性疾患および、気胸・胆石症・虫垂炎などの良性疾患の鏡視下手術に加えて、胃ろう造設も対応させていただきます。尚、胃ろうの交換窓口は、引き続き地域連携室で行っており、胃ろう造設は入院で、交換は原則外来で行っております。

また4月より、胃ろう造設患者は全例NST(栄養療法チーム)による栄養管理を開始しました。適切な胃ろう管理をするためには、基礎疾患や生活状況に応じた胃ろうカテーテルや栄養剤の注入方法を選択する必要があります。また胃ろう管理中には、スキントラブル、胃食道逆流や誤嚥、下痢・便秘などの各種合併症も起こすことがしばしばです。歯科口腔外科医やST(言語聴覚士)と連携して摂食嚥下療法や口腔ケアの必要性を確認する事も必要です。当院NSTメンバーの中にはNST専門療法士6名とST言語聴覚士3名が在籍しており、質の高い胃ろう管理の提供を目標に活動しております。

胃ろう造設予定者には、胃ろう造設の適応を確認した後に、栄養状態の確認・必要栄養量の算定を行い、推奨される栄養療法及び胃ろうカテーテルの選択を行っております。また、摂食嚥下療法の必要性も検討いたします。胃ろう造設は、患者の状態に合わせてチューブ型、ボタン型両方に対応できます。胃ろう造設困難症例に対しての開腹胃ろう・腸ろうやPTEG造設や、経腸栄養困難症例に対しての在宅静脈栄養用のCVポート造設も行っております。また、家族への注入指導も行っております。

併せて、交換のための連携シート(正式名称を)も改定しました。患者の状況に合わせた胃ろうカテーテルの交換が選択できるようにいたしましたので、カテーテルの種類の変更希望にも対応いたします。新しい用紙を配信いたしましたのでご活用ください。

胃ろうカテーテルの事故抜去については、連絡をいただければ可能な限り対応させていただきますが、現状ではすべての曜日に対応できませんのでご了承ください。夜間救急対応などについては、現在「胃ろう地域連携会議」でシステムを検討中です。



これからの予定

Part 1

利根沼田地区 病病連携講演会開催

日時 11月12日(木) 18:45~

会場 利根中央病院 講堂

特別講演 『新型インフルエンザ対策』

— 抗菌薬適正使用を含む —

講師: 群馬大学医学部感染制御部

准教授 徳江 豊 先生

第103回・第104回 利根中央病院 緩和医療研究会

第103回

日時 11月19日(木) 18:30~ 研修棟1階講堂

講演 「緩和ケアにおける倫理対応」

講師: 原 敬 (利根中央病院 緩和ケア診療科)

第104回

日時 12月17日(木) 18:30~ 研修棟1階講堂

講演 「心理的ケアとはなにか」

— 私がめざすもの —

講師: 阿部 桂 (利根中央病院 臨床心理士)かんわチーム

Part 2

これからの予定

沼田利根医師会 症例検討会

日時 12月14日(月) 18:00~
会場 利根中央病院 研修棟1階講堂

3症例を予定

第9回利根沼田地区 糖尿病地域連携研究会

日程 2010年1月29日(金)
時間 17:00~
会場 ホテル ベラヴィータ

